

## 第2回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会 議事録

■日 時 令和3年(2021年)7月1日(木) 10:00~11:30

■場 所 Web会議システムによるリモート開催  
(教育委員会事務局は301会議室、傍聴は302会議室にて実施)

■出席者 (敬称略)

委員長	小林 宏 己 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)
職務代理者	梨 本 加 菜 (鎌倉女子大学児童学部 教授)
構成員	妹 尾 昌 俊 (教育研究家、合同会社ライフ&ワーク 代表)
	渡 辺 孝 夫 (社会教育委員)
	櫻 井 聡 (横須賀市PTA協議会 会長)
	梅 谷 尚 子 (小学校校長会 代表)
	小 番 奈緒美 (中学校校長会 代表)
	伊 藤 学 (横須賀総合高等学校 校長)
	松 浦 大 翼 (三浦半島地区教職員組合 副委員長)
	小野寺 恵吏子 (公募市民)
	岡 本 純 子 (公募市民)

教育委員会事務局	佐々木 暢 行 (教育総務部 部長)
	米 持 正 伸 (学校教育部 部長)
	高 橋 直 人 (生涯学習課 課長)
	川 上 誠 (教育指導課 課長)
	富 澤 真由美 (支援教育課 課長)
	鈴 木 史 洋 (保健体育課 課長)
	阿 部 優 子 (教育研究所 所長)
	古 谷 久 乃 (教育政策課 課長)
	小 甲 諭 (教育政策課 課長補佐)
	内 田 貴 雄 (教育政策課 主査指導主事)
	伊 藤 颯之介 (教育政策課 担当者)

■傍聴人 3名 (302会議室にて大型ディスプレイからの視聴により傍聴)

■議 題 議題1 令和3年度横須賀市教育フォーラム開催について (報告)  
議題2 未来に向けて横須賀の教育が目指す姿について (意見交換)

- 1 未来の横須賀の教育に対する、各委員の思い
  - 2 目指す姿（議論のためのたたき台）に対する所感
- 議題3 今後のスケジュールについて

- 資料
- 資料1 令和3年度横須賀市教育フォーラム開催報告
  - 資料2 未来に向けて横須賀の教育が目指す姿（議論のためのたたき台）
  - 資料3 今後のスケジュール
  - 参考資料1 教育フォーラム（ワールドカフェ）キーワード集
  - 参考資料2 教育フォーラム 市長メッセージ
  - 参考資料3 教育フォーラム ファシリテーター総括（関東学院大・牧瀬准教授）
  - 参考資料4 他都市の基本理念等
  - 参考資料5 次期計画での位置付けを検討している方針・柱・施策（案）

- その他
- 本委員会は、全部を映像と音声の送受信により相手の状態を相互に確認しながら通話を行うことができるシステムを利用する方法により行い、会議の冒頭において、事務局が委員間で映像と音声即時に伝わることを確認するとともに、映像と音声により委員本人の確認をした。

#### ■開会・作業部会報告

##### （教育総務部・佐々木部長）

ただいまから、第2回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を開会いたします。

本日もオンライン上での会議となりますが、よろしくお願いたします。なお、本日の会議から、教育委員会事務局・生涯学習課長の高橋、教育研究所長の阿部が出席いたします。早速ですが、会議の進行を小林委員長にお願いしたいと思います。

##### （小林委員長）

前回の会議では、「計画の策定方針」「現状と課題」「アンケートの結果」等について、ご意見をいただきました。本日は、3つの議題が用意されています。一つ目が令和3年度横須賀市教育フォーラム開催について、二つ目が未来に向けて横須賀の教育が目指す姿について、三つ目が今後のスケジュールについてですが、議題に入る前に前回の会議後に行われた作業部会での協議内容について、事務局から報告をお願いします。

##### （教育政策課・古谷課長）

5月18日に作業部会を開催し、妹尾委員、櫻井委員、梅谷委員、小番委員にご出席いただきました。

作業部会では、第1回の会議を振り返るとともに、本日の会議に向けて整理すべきことを協議しました。

前回の会議では、主に現状分析の精査の必要性をご指摘いただきましたので、本日の会

議で詳細な分析結果等をご報告し、ご意見をいただくことも検討しましたが、作業部会では「議論の対象が広がりすぎてしまう」というご意見や「細かいデータの精査も大事だが、未来に向けての話に時間を割くべきではないか」といったご意見をいただきました。

そのため、事務局において再度検討し、本日の会議では「未来に向けて横須賀の教育が目指す姿」に絞って、皆様に議論いただくことといたしました。

現状分析につきましては、現在並行して精査を進めています。第3回以降、あらためてご報告させていただきますので、ご了承くださいませようお願いいたします。

## ■ 議題1 令和3年度横須賀市教育フォーラム開催について（報告）

### （小林委員長）

それでは、議題1「令和3年度横須賀市教育フォーラム開催について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

### （教育政策課・古谷課長）

資料1「令和3年度横須賀市教育フォーラム開催報告」をご用意ください。

教育フォーラムは、横須賀市の「目指す子ども像」・「目指す教育の姿」について、市民の皆様から意見をお聞きし、教育振興基本計画の策定及び教育環境の整備の検討に生かすことを目的に、5月23日に横須賀市総合福祉会館にて、中学生、高校生、大学生、保護者、教員、公募市民の計60人にご参加いただき、開催しました。

第1部では、「ワールドカフェ」方式により、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に意見交換を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら、話し合いを発展させました。

第1ラウンドでは「どのような子どもを育てるか」、第2ラウンドでは「どのような教育内容が必要か」、第3ラウンドでは「どのような教育環境が望ましいか」という、3つのテーマで意見交換をしていただきました。

第2部では「ラウンドテーブル」方式により、討論者と参加者が自由に意見交換を行いました。発言が一方的になってしまう講演方式に比べ、参加者も発言できるため、活発な意見交換が行われました。

当日いただいた意見は、2ページにまとめています。なお、写真にありますとおり、ワールドカフェの各テーブルではポストイットに参加者の意見をキーワードとして書き出していますが、それを集めたものが参考資料1となりますので、そちらもご参照ください。

また、開催に当たり、市長からビデオメッセージをいただきました。メッセージの内容は参考資料2のとおりですので、ご参照ください。

ここで、当日ファシリテーターを務めていただいた関東学院大学・牧瀬准教授による総括をご報告いたします。

参考資料3をご参照いただければと思いますが、牧瀬先生からは、「横須賀市の目指す子ども像および教育の姿を把握するという所期の目的は達成できた」「ラウンドテーブル後の意見交換も、実に多様な意見が出ていた。」「意見を言える雰囲気形成できたという意味で、成功だった。」といった全体の感想とともに、「全体的に時間が少ないと感じた。」「ワールドカフェによる意見聴取の機会は、回数がもう少しあった方が良い。」などの改善点を

ご指摘いただきました。

今後、本日の議題でもあります「未来に向けて横須賀の教育が目指す姿」の議論に入っていくわけですが、事務局といたしましては、この教育フォーラムの場では、立場や年齢の垣根を越え、「反論禁止」のルールの中で自由に語り合っていましたので、ここでの貴重なご意見をしっかりと踏まえ、委員の皆様とも共有できればと考えています。

以上で、教育フォーラムについての報告を終わります。

#### (小林委員長)

教育フォーラムには、櫻井委員がパネラーとして参加されています。また、横須賀総合高校の生徒さんも参加されているということでした。

当日の様子や感想などをお聞かせいただければと思いますが、櫻井委員、いかがでしょうか。

#### (櫻井委員)

非常に活発な意見が出たのが非常に良かったということと、子どもたちと保護者が同席して教育について話し合うということが非常に新鮮だったと思います。

参加している子どもたちは意識が高い子が中心でしたので、意識がそれほどないという層にももっと参加してほしいという思いはありますが、幅広い意見が出たことは非常に良かったと思いました。

牧瀬先生の話にもありましたが、回数がもう少しあった方が、1回ブレストで意見を出し、それを持ち帰ってもう一度第2ラウンドを行うということで、話が煮詰まっていくのかなと思いました。

また、テーブルが変わるごとに、前のテーブルで出た意見を皆でもう一度洗い出すという作業をしていたと思いますが、これをやることによって、時間を追うごとに全テーブルが同じ話題になっていってしまったというところが少し残念でした。

例えば、「ヤンキー」の話が出たと思うのですが、これは1か所のテーブルだけで話し合ったはずなのですが、全テーブルで共有してその話を繰り返してしまった、というところがあります。もちろん、皆で話し合うのは良かったのですが、そこに話題が集中してしまったということも、残念ではないのですが、もう少し別の方法があっても良かったのかなと思いました。

いずれにしても、横須賀らしさが非常に出たと思いました。思いやりであるとか、優しさであるとか、そういう半島の横須賀らしさがすごく出て、良かったなと思いました。

#### (小林委員長)

伊藤委員、横須賀総合高校の生徒さんの反応はいかがでしたか。

#### (伊藤委員)

教育フォーラムには本校生徒がワールドカフェやラウンドテーブルのメンバーとして参加させていただきました。参加したのは全日制から4名、定時制から1名の合計5名です。いずれも、生徒会役員の生徒に声をかけたところ、進んで参加してくれました。当日は私も一部でしたが生徒たちの様子を見させてもらったり、後で生徒から感想を聞いたりして

いますので、少しそのことについてお話をさせていただきます。

私が言うのもおかしいかもしれませんが、私の見る限りにおいては、本校の生徒はそれぞれが自分に求められているものを十分に認識して、しっかりと役割を果たしていたのではないかなと感じています。

高校生らしい発想が垣間見られた場面の一例としては、生徒の多様性ということが話題に上がったときに、多様性と、校則をはじめとするルールとのバランスをどうとるべきか、といった質問をしたり、また、別の生徒が、「生徒の多様性」という言葉でひとくくりにしてしまうことの危うさについて指摘したりしていましたが、これらはいずれも本校の生徒であります。

また、ワールドカフェの中で、どのような教育環境が望ましいかについて意見を出し合う際に、本校定時制の生徒が、「私は中学校のときに不登校を経験しました。最近は学校に行きたくても行かれない生徒も多くいるので、学校以外でも勉強ができるような環境があればいいと思う。」という意見を臆することなくしっかりと述べていたのを見て、私も大変頼もしいと感じたところです。

いずれの生徒も、「大人の中に混じって最初は緊張したけれども、ファシリテーターの方が上手に意見を引き出してくださって、安心して意見を言うことができた。」「横須賀の未来の教育について考える機会を得られたことによって、今受けている授業などもこうした計画に基づいて行われているのだということを、あらためて考える機会になったし、自分たちがしっかりと将来を支えていく存在にならないといけないという意識を持つことができた。」などの意見を述べています。

この度は本校の生徒に貴重な経験をさせていただきましたことについて、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

#### (小林委員長)

議題1に関しては以上となります。教育フォーラムの内容は次の議題でも深く関連してくると思いますので、他に各委員からご意見等がありましたら、次の議題2の中でまとめてご発言いただければと思います。

それでは、議題2「未来に向けて横須賀の教育が目指す姿について」に入ります。

この議題の進め方ですが、まず事務局から説明をいただきます。その後、各委員から順番に、ご自身の「未来の横須賀の教育に対する思い」をお話しいただくとともに、事務局が用意した「たたき台」に対するご意見なども伺っていきたいと思います。それではまず事務局から説明をお願いします。

### ■議題2 未来に向けて横須賀の教育が目指す姿について(意見交換)

#### (教育政策課・小甲課長補佐)

資料2をご用意ください。

「未来に向けて横須賀の教育が目指す姿」をご議論いただくに当たり、事務局で用意した「たたき台」について、ご説明いたします。

まず、「1 現行計画における目指す姿」についてです。

現行の横須賀市教育振興基本計画では、「目指す子ども像」として「人間性豊かな子ども」

を掲げ、さらに、「目指す子どもの教育の姿」として「学校・家庭・地域が、それぞれの役割を果たすとともに、信頼し、協力しながら、横須賀の子どもを育てている」を掲げています。

これらを目指す姿としてこの11年間取り組んできましたが、次期計画の策定に当たり、あらためて目指す姿を定めようとするものです。

次に、「2 次期計画に位置付ける目指す姿」についてです。

検討事項として2つの視点を挙げていますが、その前に、たたき台の内容をご説明します。

2ページから4ページにありますとおり、「目指す子ども像」「目指す人間像」「目指す教育の姿」の3パターンを作成しました。それぞれ、アは、複数の像を示すスタイル、イは、複数でなく、ひとつの像にまとめるスタイルです。いずれも、教育フォーラムでいただいたご意見やキーワードをヒントに、まとめてみたものです。

なお、現行計画は「子ども像」としていますが、「将来このような大人になってほしい」という視点で見た場合は、「目指す人間像」になるのではないかと、という視点で、人間像のパターンも作成しています。

ここで、1点補足させていただきます。1ページをご覧ください。

「1 現行計画における目指す姿」に、「目指す子ども像」と記載していますが、これは、厳密には「目指す子ども像」ではなく「横須賀の子ども像」が、計画上の表記です。現在の計画を作るとき「目指す、という表現を使うのであれば、成人ではないか」という意見があり、「目指す」という部分を「横須賀の」に改めた、という経緯がございました。本日の資料には「目指す」としていますが、そのような経緯がありましたので、補足させていただきます。

このように、事務局でたたき台をいくつかご用意しましたが、このどれかを選択していただく、ということではなく、委員の皆様の思いやお考えを交えながら、目指す姿をブラッシュアップしていければと思います。

その際、1ページに記載しています、検討事項の視点でご議論いただけますと、より具体のイメージがわきやすいのかな、と考えています。

なお、本日皆様からいただくご意見のまとめ、かたちにする作業は、事務局で行わせていただきます。様々なご意見をいただくと思いますが、まとめたものについては、考え方とあわせて、次回検討委員会でご報告いたしますので、あらかじめご了承ください。以上が、議題2の事務局説明となります。

#### (小林委員長)

ただいま事務局から、次期計画に位置付けていく目指す姿について、教育フォーラムでの意見をもとにした「たたき台」が示されました。

これから議論に入りますが、先ほど申し上げましたとおり、各委員ご自身の「未来の横須賀の教育に対する思い」をお話させていただきますけれども、事務局の「たたき台」に対するご意見も重ねていただきたいと思います。

それでは、小野寺委員からお願いしたいと思いますが、一応3分程度となっておりますので、よろしく願いいたします。

### (小野寺委員)

私が横須賀の子どもたちに目指してほしい姿は、横須賀を好きになってもらい、また、自信を持って社会に出て、そして大人になって横須賀に帰ってきて貢献できるような子どもたちに育ててほしいと考えています。

目指す姿のたたき台については、教育の姿と人間像の前にキャッチフレーズ、キャッチコピーのようなものをひとつ作り、教育委員会が何を示したいかを見せた方が、私たち親や市民は、何がしたいかがはっきり分かるのではないかと思います。

資料2の2ページ目をめくっていただきたいのですが、このたたき台を見て三つ、少し気になったところがあったので意見させていただきます。

一つ目は、資料2の2ページ、「あいさつ・マナー・ルールの大切さがわかる子」というところですが、これは市の教育委員会が出すのではなく、日頃から学校の先生方がやってくださっている部分でもありますし、やっていただきたいなと思うところでもあります。防犯上、私は子どもに知らない人に話しかけられてもついて行かないで、と言っているのに、「あいさつ・マナー」を市が出すと少し怖いな、という思いがしました。これは引き続き学校の校内目標で日頃から指導やしつけとしてやっていただければ嬉しいです。

二つ目は同じく2ページの「笑顔でチャレンジする子」の「笑顔で」の部分に引っかかりました。真剣にチャレンジするときには、笑ってできる場面とできない場面があるのではないかと思います。言葉が少し見つからないのですが、例えば「活力を持ってチャレンジする子」など、表現を変えてもいいのではないのかなと思いました。

三つ目になりますが、3ページ・4ページに「国際性を身に付け」という表現が書かれているのですが、「身に付ける」だと、私たち親が子どもに対して教育としてTOEICなり何かしらをさせなければいけないのかなと感じたので、例えば4ページの「国際性や情報活用能力を身に付ける教育」という言葉よりは「国際社会に地域の魅力を発信し、新しい時代を切り拓く人」などに表現を変えた方が、何となく前向きな感じに捉えられるのではないかと思います。

このたたき台やフォーラムで出たものを見て、思いやりに対することがすごく出ていたので、未来に向けて、少し安心しました。

### (岡本委員)

私は、まず現行の「人間性豊かな子ども」について、他の都市のものを拝見しても、一文で覚えやすい、分かりやすいなと思いました。さらに、いろいろな要素を包括し、自分たちで創造しながら進んでいけるような意味合いのある言葉で、このままでも良いのではないか、そこから分かれる6本の枝の中で手を入れていくという考え方も良いのではないかなと思いました。

全世代に、という点で私は「学びを礎に豊かな人間力を備え、自己実現に向かう」と表現してみました。詰め込み教育は、昭和の私たちが受けていた時代のことですが、今、知識教育は良くないというようなことが前面に出ています。しかし、やはり知識がないと、人間力を高めたり、自己実現には向かわないのかな、と思いますし、学校の力、教職員の方々への思いも込めて、この言葉を入れてみました。

人として、という点では、最終的に自分らしくどう生きるかということは市長の言葉にもありましたけれども、そこを自己実現という言葉に置き換えて表現してみました。ただ、

私なりに少し硬いかな、とも思っています。言葉に込めた意味はそういったことです。

ご提案いただいたたたき台では、先ほど小野寺委員からも挙がっていましたが、私も2ページの「自ら学び 違いを受け入れ 笑顔でチャレンジする子」の「笑顔で」というところが、具体的な表現が見つからないのですけれども、これはどうかな、と思いました。また、「明るく元気によく笑い」というところも、目指す姿としてそういう子どもであってほしい、子どもらしくいてほしい、ということもあると思いますが、みんなが明るく元気じゃなくてもいいのかな、それが個性なのかな、と思います。こうできない子たちのつらさ、大人でも外向きの部分が難しいタイプの方もいるので、ここに明確に入れてしまうと、少しつらさがあるのかなと思いました。

計画で検討している方向性についてですが、フォーラムでも生徒さんの意見がとても多様に出ていたのですけれども、重複するところにポイントを置いてみました。「少人数授業がいい」「先生と話せるような環境がいい」、そういう言葉がありました。私は、提案としては、少人数ではなく、クラスは現行のまま多くの子どもたちが関わり、そこに教員という大人が入る。その中で、子どもの学びのところだけではなく、抱えている問題とか、安定してない環境とか、そういう一人の教員では気付けないところに気付いて、共有していくことで、子どもの心の安定、安心から意欲を引き出してあげられるような環境になったらいいなと思いました。

#### (渡辺委員)

私は現行計画の「目指す子ども像」「目指す子どもの教育の姿」を読んだとき、少し疑問を感じました。

子どもは未来を担うとても大切な存在であり、現状や社会的背景に鑑みて、子どもの教育を重点的に捉えることは理解できますし、積極的な計画だと思います。

しかし、時代や社会が大きく変わると考えたときに、11年前との違いや差があると感じます。人口減少、超高齢社会等が想定外に進んだということもあると思いますが、出ている言葉としては、大きな違いは見当たらないような気がしました。例えば、自主的に活動する、自ら考え行動する、相手を思いやる、優しい心を持つ、違いを認める、国際性を身に付け、新しい未来を創り出す、地域を知り、地域を愛し、地域とともに育つ、という表現も、同じような感じかなと思います。

教育フォーラムで出た意見については、若者たちの意見は有意義で、本当に真面目に語っているという印象を受けました。

他都市の基本理念等を見てみると、横須賀市の計画は学校教育に偏重し過ぎているなどという気はしました。子どもが少なくなって、人口減少が進んでいる今日、子どもの教育だけでなく、横須賀に暮らす人、横須賀に暮らす人間の教育を計画で網羅すべきだと考えました。だからこそ、目指す姿は、目指す子ども像や、目指す子どもの教育の姿から少し変えていくべきかなと思っています。

次期計画における考え方としますと、横須賀で暮らす人づくり、横須賀で暮らす人の教育というふうにつけていくといいのかなと思いました。そして、未来を切り拓く、希望をもって、社会に役立つ人間となる、自らを愛し、共に暮らす人を大切に思う気持ち、お互いに助け合う、支え合う人になる、ということが必要かなと思いました。

そして、議論のためのたたき台における、社会教育の視点についてです。私は以前は、



「横須賀は基地のまち」と言われて恥ずかしい、とっていました。住んでいるところを聞かれれば、横浜の方とか、神奈川県の方とか言っていました。しかし、本当はどうかというと、三方を海に囲まれ、緑が豊かで、気候は温暖です。雪もめったに降らないし、台風もそれていきます。都心へ1時間程度で行けて、10分間隔で電車が来ています。犯罪発生率も低く、物価もそれほど高くはない、暮らしやすいまちです。かつて海軍だったまちが文化財になり、今ではまちの魅力となって、多くの人々が来るようになりました。このまちを誇れるかと今問われれば、以前よりは誇れるような気がします。子どもたちのアンケートからも、海と緑を大切にしたいという意見が一番多かったです。これこそが郷土愛だと考えます。したがって、ふるさと、郷土として誇れるまち、そこに暮らす人、ということを取り上げた方が良いと思います。郷土を愛する、郷土を大切に作る、暮らしている地域を大切に思う、地域で暮らす人々を大切に思う、などです。長野市の例として、「自然と文化あふれる郷土に誇りを抱き」という表現がありますが、このようなかたちもいいかなと思いました。

もうひとつ、人口減少と超高齢社会、人生100年時代と言われる中で、教育は何かと問うたときに、学びを保障する、生涯にわたって学ぶ喜びを感じられる、横須賀の教育は子どもから高齢者まで学ぶ喜びを感じられる、ということだと思います。健康で生きがいを感じられ、学ぶ意欲が自然に湧いてくる、そんな喜びを一緒に感じられる、学びを誘い合える人になるということだと思います。

#### (松浦委員)

たたき台の方からお話させていただきます。学校の場面で考えていくと、家庭、地域との連携が必要と考える中で、現行の目指す子ども像で掲げている「人間性豊かな子ども」では、やはりどうしても「子ども」像ということで、学校にかなり重点が置かれているのかなというふうに感じました。

今回もたたき台の中で子ども像というかたちが出ていましたが、先ほども出ましたけれども、社会教育や生涯教育の観点で考えていくと、教育は学校だけで終わるわけではなく、小学校、中学校を過ぎた後も教育は続いていくと思いますので、「子ども像」というよりは、「人間像」とした方が、横須賀市の教育というかたちでは、あてはまるのかなと感じています。

スタイルとしては、現行計画の「目指す子ども像」のように、キャッチフレーズ的な端的で、目に触れやすいものがあるのかなと思いますので、ひとつの像にまとめるスタイルが良いのではないのか、と考えました。複数の像を示すスタイルでいくと、周囲の方が見たときに、パッと目に入るものではないのかなというところで、やはり、ひとつの像にまとめ、そのあと枝分かれするようなかたちで複数の目指すべき姿を具体的に示すようなかたちが良いのかなと考えました。

たたき台の部分で1から5まで番号が振ってあるのですが、番号が振ってあるとどうしても優先順位的な感じで1番から見ていってしまう部分があるので、番号は振らない方が良いのかなと感じています。

それぞれ、まだたたき台というところですので、さらによく考えていった方がいいのかなというふうにご検討しております。

#### (小番委員)

私は中学校校長会の立場で出ておりますが、個人的にということであれば、やはり分かりやすいもの、覚えやすいものを作っていくということが、まず大事なのではないかなと思いました。

中学校校長会の立場ということでは、まず、現在中学校全 23 校でそれぞれ挙げている目指す生徒像というものに、ランキングをつけてみました。

ベスト 3 は、「思いやりを持つ子ども」「自らの考えを持って自ら行動できる子ども」「他者を大切に認め合う」そのようなキーワードでした。

4 番目に、「あいさつできる子ども」「進んで学習」「主体的に」といったフレーズが続きます。

次に多かった言葉が、これは横須賀の中学校の特色なのではないかと思いますが、「全力で取り組むこと」そして、「社会、地域に貢献する」「正しい判断、正しいルールを身に付ける」「心身ともに健康である」このような言葉でした。

教育像の方ですが、こちらは教育目標にもなるのですけれども、「信頼される学校」「安心、安全な学校」「学ぶことの喜びを見いだし、見いだせる学校」「一人一人を大切に思える学校」「支え合うことができる学校」「規律ある学校」そして、「笑顔であってほしい」。こちらは、先ほどの小野寺委員、岡本委員からの言葉とはまた違った方面での学校の思いというものがあるのではないかな、ということを感じました。また、「国際性」や「多様性」の言葉が、学校のグランドデザインの方には、意外と少なかったという気がしました。

先日、本校の 1 年生の社会の授業を参観したとき、「インドが経済発展したのは何でだろう。2050 年に中国に次いでインドが 2 位になるかもしれない」という討論をしていました。なぜインドが発展するのかと教員が聞くと、生徒から人口、貿易、技術、工業、などいろんなフレーズが出てきましたが、そこで出てきた予想もしなかった言葉が何かというと、「教育」が出てきたのです。子どもたちの中で、教育を大事にするからこそ、経済発展にもつながるのではないか、ということが出てきたのです。子どもながらに、教育が大事だと思っているということを感じました。

目指す姿については、子どもが主役というようなかたちで考えていただければ良いのではないかなと思いました。

#### (梅谷委員)

今までの皆さんの意見を伺った中になかった一つとして、自律という言葉に代表されるのですが、子ども自身が、自分自身を強くしていく、そういう力がとても必要だと考えています。

初等教育を預かる立場としまして、今回の学習指導要領の主体的に取り組むという中に、粘り強さであるとか、自己調整をする力という言葉がありますけれども、やはり、子ども自身が自分を律していくという力がとても大事ではないかと思っています。今、様々な問題がある中で、自己解決をしていく力、目的を持って行う力、そういう方向性がひとつ大事かなと思っています。

そして学校現場では、先ほどの多様性というキーワードにあります、外国につながるのある子どもであるとか、不登校であるとか、学校になかなかなじめない子どもをどういうふうにしていくかということが、とても大事になっていると思います。自分を育てていく

ということとともに、多様な価値観を認めていくということです。義務教育が終わった後も80年くらい生きていくわけですから、自分でその姿にしていけたらいいなと思っております。

ふるさと意識というものも、とても大事だと思います。横須賀という地が好きであるということ、そこを大事にしていきたいと思っております。

もうひとつは、学校現場が非常に忙しいということは皆さんご理解をいただいていると思いますけれども、校長の立場としましては、教師が手一杯の部分がありますので、やはり、家庭、地域、もちろん学校もそうですけれども、連携も必要ですが、役割分担ということも必要であると思います。人口減少がひとつ大きな課題になっていますけれども、シニア世代の方たちがうまく横須賀の教育に参画できるようになればと思います。

そして、やはり私たち教師は、横須賀の教育はこうであると、横須賀の教育を誰もが語れるようになってほしいと思います。横須賀は本当にふるさとを大事にしているのだとか、子どもを粘り強く育てているのだとか、あるいは、人への関心、物への関心、関わりを持つことを大事にしているのだ、ということ語れるような教育振興基本計画であったら良いと思います。

皆さんの意見とだいぶ重なりますが、学校長としてはそのように考えております。

#### (伊藤委員)

前回の教育振興基本計画を策定するときには、私は事務局の側で関わったと記憶しているのですが、あらためて前回の教育振興基本計画を高等学校の校長という立場で読み返してみますと、致し方ないと思うのですが、どうしても義務教育が中心に述べられていると感じてしまいます。

これからの教育振興基本計画を考えていくときにまず私が強く訴えたいのは、横須賀の将来を語る中で、夢のある、ワクワクするような、そんな内容にしたいということです。子どもというくくりが非常に難しいのですが、高校、高等教育の内容もバランス良くこの中に取り込んでいただけると、せっかく横須賀市は市立の高等学校を設置しているわけですから、市立高校の存在意義を再認識するような機会にさせていただけると、大変ありがたいと思います。

私は本校の生徒のことを「子ども」と言ったことは一度もありませんし、特に定時制の方では私よりも年長者の生徒もおりますので、やはり「子ども」というのは、少しそぐわないのではないかという印象を持っています。

また、来年4月からは成人年齢も民法で引き下げられます。このようなことを考えると、子どもの捉え方も前回の教育振興基本計画のときは変わってきているのかな、というふうに感じます。

本校では学校教育目標をひとつ掲げていまして、その下に「めざす生徒の人間像」、「めざす学校像」、「めざす教師像」と、目指す姿を三本柱で掲げており、「めざす生徒の人間像」のひとつを、「横須賀の良さを世界に発信できる人間」としています。

これはやはり、市立高校の存在意義ということだと思います。県立高校や他の私立等の高等学校と比較して、横須賀の良さを、このグローバルな世界、横須賀で活躍するだけではなく、世界のどこかで発信する、というのもありだと思います。私は卒業していく生徒らに、将来この横須賀の良さを世界に発信できる人間になってくださいと、いうことを

常々生徒にも話をしています。横須賀が大好きで、将来横須賀のために貢献できる、横須賀の良さを世界に発信できる、そんな人間になってもらいたいな、という思いがあります。

あとは、唱えやすい、覚えやすいということも大事だと思います。そう考えていくと、あまり細かいことを書くのではなく、シンプルに、目を引かれるような、そんな教育振興基本計画でありたいと思います。

#### (櫻井委員)

フォーラムでも必ず各テーブルで出てきたのが、横須賀が好きという言葉だったと思います。横須賀の子どもたちは本当に横須賀が好きで育っていくのですけれども、どうしても働くところがないということで、横浜に出て行ってしまい、そこで相手を見つけて結婚し、横須賀からどんどん出ていってしまうということになってしまうと思うのです。

横須賀が好きな彼らにまた戻ってきてほしいということは先ほどのお話にもあったと思うのですけれども、やはり、横須賀で働いている大人たちの背中が見えていないと思うのです。横須賀で働く大人たちの背中を見せる教育、これも必要だと思っていて、これがあれば「横須賀で活躍したい」とまた戻ってきてくれる、横須賀で学んで、横須賀のために頑張ってくれる、世界に発信してくれる子どもたちが増えていってくれるのかな、というふうに思っています。

たたき台については、先ほど伊藤校長もおっしゃっていたとおり、箇条書きで細かいものを基本計画にするよりは、今お話に出たような、地元愛、というようなキーワードをドンと出してしまおう、という方が良いと思っています。

僕も「目指す子ども像」には違和感がありまして、この基本計画を10年と考えると、子どもはもう大人になってしまうわけです。子どもの教育と大人の教育は、シームレス、持続可能に回っていかなければいけないものだと思っていて、地元愛をキーワードに子どもと大人が学び合う、そういった都市を目指すということが大事だと思っています。

しかし、今横須賀の大人たちが地域で子どもたちに何かを学ばせているのかというところも少し難しいです。アンケートにもあったと思うのですが、社会教育というと、興味のある人はものすごく興味があるのですが、ある一定数しかなくて、ほとんどの大人が生涯学習や社会教育にあまり興味がない、という結果があります。

でも、そこを地域がつかないでいくということができると思うのです。実際、佐島にへらへら団子という郷土料理がありますが、これを子どもたち、また地域の人たちを集めて作り方を教えてあげたりしました。これも、大人の学びでもあるし、子どもの郷土での学びでもあると思うのです。しめ縄づくりもそうです。実際に地域からおじいさん方を連れてきて、みんなで学んでいく。横須賀らしいしめ縄の作り方もあったりして、こういう学び合いをしていくという基本計画もあっていいのかなと思っています。

たたき台について、複数の像を示すスタイルが良いのか、ひとつの像にまとめるスタイルが良いのかといえば、やはり、まとめるスタイルが良いかなというふうに思っています。

#### (妹尾委員)

3点ほど申し上げたいと思います。1点目は皆さんとよく似ていて、子どもだけではなく、子どもも大人も学び合うという点は大事にされた方がよいのかなと思います。やはり人口減少の話などを考えましても、大事かなと思います。

それに関連して申し上げますと、キーワードになるか分かりませんが、生涯にわたって学び続ける力を高めるといった要素は大事なかなと思います。まさにこのコロナがそんなのですが、予想外のことがどんどん来たりですとか、災害に見舞われたりとか。あるいは今社会人の方も多くの方がそうだと思いますけど、学校で学んだことはもちろん役に立ちますが、学校で学んだらそれでおしまいという時代ではなくなってきているので、仕事を通じてまた学び直したり、あるいは仕事をしてまた学校に行き直したり、いろいろなキャリアがあって良いという時代にどんどんなっています。長生きする時代、人生 100 年時代と言われていいますので、学び続ける力を小学校、中学校、高校などで基礎固めはした上で、大人になっても、そういった力がアップデートできるように、生涯学習などいろいろな支援をしていくという考え方の方が良いのではないかなとは思いました。

2点目は、生涯学習の中のほんの一部かもしれませんが、子どもの関連については、子どもの学習権だとか、カタカナ語ですが、ウェルビーイングと言いますか福祉と言いますか、幸せと言いますか、子どものウェルビーイングをもっと大切にしていこうということは、より強調した方が良いのかなと思います。家庭環境もしんどいお子さんもすごく増えていて、まさに1年前の休校中がそうでしたけれども、学校の機能が弱くなった途端、非常にいろんな問題があったというか、しんどかったということがありますので、あらためてそのあたりのことは大事にしたいというところだと思います。

僕がたまに関わっている東京の私立で新渡戸文化学園という面白い学校がありまして、その学校像と言いますか学校経営のキーワードの一つが「Happiness Creator」ということで、横文字が良いかは要検討だとは思いますが、要するに幸せな部分を自らつくっていきけるような生徒を増やしたいという理念で「Happiness Creator」というキーワードを作っているのです。例えばそういうようなものも、そのとおりでなくても全然いいのですけれども、何かこう、分かりやすいものがあつた方が、確かに良いのかもしれない。

最後3点目、これはすごく悩ましいのですけれども、他の方からもみんなが明るくなくてもいいのではないかとか、みんなが笑顔でなくてもいいのではないかとかおっしゃっていただいたのはすごく僕も共感しています。かつてと違って、こういう人間像がいい、こういう子ども像がいい、という少し押し付けがましいところについて、やや多様であつていいよね、みんな違っていいよね、という考え方の方がより強くなってきたのではないかなと思います。そういう意味では一番悩ましいのが、さっきの地元愛であるとか、横須賀を誇りに思うというものも、少し押し付けがましい部分も正直あるので、結果としてそういう子どもが増えたらいいね、というような思惑なり施策はいいのですけれども、前面に出す必要まであるかどうかというのは、要検討かなという気はします。横須賀総合高校の生徒さんがおっしゃっていたように、多様性という言葉でくる危うさはあると思うのですけれども、とはいえやはり一人一人の、子どもも大人もいろんな多様性、価値観を一層大事にしていく基本計画でありたいなとは思っております。

#### (梨本委員)

既に、目指す子どもの教育の姿などについても非常にご意見が出ています。私もキャッチフレーズ的な意味ということを考えて、やはりシンプルな表現の方が全ての市民に、それから子どもたちに分かりやすいと思いますので、ひとつの像にまとめるスタイルになるのかなと思いました。

ただ、これも既にご意見が出ていますけれども、義務教育にかなり集中した話になっているかと思っています。目指す姿を社会教育として別に立てるのであればそれはそれでありだと思いますけれども、これ一つで教育の姿ということで出していくのであれば、高校教育の話も出てきましたし、それから社会教育の観点で市民全体に、ということを入れていただけると良いと思っております。

教育環境についてですが、社会教育については櫻井委員がおっしゃるとおり少しなじみづらいところがあるかもしれませんが、横須賀は博物館、図書館、生涯学習センターなどもありますし、コミュニティセンターも社会教育としてしっかりやっていますので、そういったところを含めた幅広い視野で、それこそ教育環境全体というような考え方があると、横須賀の教育のビジョンとして非常に広い裾野の中で子どもを支えていく、市民の学習を支えていく、そういうことができるのかなと思っております。ですので、できましたら、市民の生涯学習という観点を入れていただけると、より子どもの教育、高校、中等教育以降になるかもしれないのですけれども、進路なども考えながらということもあるかと思っておりますので、良いのかなと思います。

#### (小林委員長)

表記の問題として、複数列举よりは、できればまとめて極力シンプルな表現の方がよろしいという意見が、ほぼ皆さん共通して出てきたと思うのですけれども、私もそういう文言に整理できればその方が良いかなと思っています。

直接具体案というものは、私の中でもまだそれほど深めてはいないのですけれども、私自身の教育観の根本になるのですが、この近年の動きも考えていくと、イメージとしては、多くの先生方も触れていただいたような、一人一人の子ども、実は子ども以上に私たち大人というか市民社会がそうなのですけれども、自分で、自ら物事をちゃんと考えて判断していくという、主体性の在り方の問題だと思えます。

私たちが人としてどれだけ主体的かという問題と、近年のグローバル社会の中で重要視されている多様性という問題です。ダイバーシティという言葉がありますし、前から強調されているインクルーシブの考え方、日本語的な感覚で言えば、みんなで包み込んでいくというか、寛容性のある社会というのでしょうか、先ほどの笑顔の問題ですとか、元気とか、頑張らなくちゃとか、こういうことは日本社会では強調されがちですけれども、その言葉を強調することによって、他方に傷つく人たちが現実にはいらっしゃるわけで、そういう意味では、多様性という言葉、包摂性のある、ある意味では優しさというか、そういうことを私ももっと大切にしたいと思っています。

それから三つ目の考え方、これも皆さん異論ないと思うのですけれども、言葉で言えば、協働性ということです。いかにコラボレイティブな社会にしていくか、いろんな多様な人たちと、みんなで何か力を合わせたり、お互いさまとして、立場や意見や思いの違いをどうやってつなぎ合わせていくか。そういう協働性の部分は非常に大事になっていくであろうと思います。

皆さんの意見から、いろいろな意味で重なり方がたくさん出てきているので、この後の議論も含めて事務局の方でうまく整理をしていただきながら、上手に着地点を探していただければと思っています。

もう一つ、言葉としては出てこなかったのですけれども、似たような他の自治体の会議

の中でも、これは内容的な問題に関わりますが、SDGsのような、そういう一つの価値があります。これも今、地球社会ほぼ全体で共有されていると同時に、民間企業や学校も含め、様々な機関でこれをまず前提にするという方向性があります。ただ、これもはじめにSDGsありきだとやや押し付けがましくなってしまいますから、この中に込められている価値というものも、先ほど申し上げた主体性や多様性、協働性にほぼ重なってきますので、一度我々も頭の中に置いておく方が良いかなと思います。

最後に、私も悩ましいのが、やはり「横須賀市の教育をどうするか」なので、地域特性というか、横須賀の良さというものは、自信を持ってしっかりと子どもにも市民にも向けて発信していくべきだと思います。ただ、そのことが例えばこれも妹尾委員がおっしゃっていましたが、ある種の押し付けがましきみたいなことに受け取られてしまったりは、きっと私たちの本意ではないと思います。

世界では「何々愛」というものがナショナリズムなのか、それとも人間、人としての自然な、自分の生まれた土地や地域に対する愛情なのか、これは英語の訳になると二つに分かれますけれども、当然後者の思いで皆さんも発言されたし、今後もそういう方向での議論ということでまず共有した上で、その辺の表現の工夫といいますか、いわゆる郷土愛の問題であるとか、横須賀を愛していくというところも大切に扱っていきたいと思っております。

皆さんのご意見を基にしながら、一巡して聞いたからこそのお考え、様々な思いがあると思いますので、それを少しお聞きできればと思っております。事務局が用意したたたき台に対するご意見の追加や、ぜひこの点もう少し他の方々と議論を深めてみたいということがありましたらご発言いただきたいと思っております。

その際、お手元の資料の方にもあったと思いますが、結局何を指すか、ということと、どう表現するかということ、このポイントに関して具体案をもう少しいただけますと、今後の進行にも非常にプラスになると思っておりますので、どうぞ積極的にお願いたします。

#### (小野寺委員)

キャッチコピーについて、「私が好き あなたが好き 横須賀が好きな子」というフレーズは私が何となく気に入っているのですが、そこに地域愛を込めて他は入れない、など案配をとって、なるべく子どもたちに地域を好きになってほしいという気持ちが込められたらいいのかなと思っております。

#### (小林委員長)

十分、私もそのように理解しています。その思いを皆さん共有した上での話ということで進めていきたいと思っております。

#### (伊藤委員)

先ほど申し上げたことと関連性もあるかと思いますが、この教育振興基本計画の枠組みと表し方を工夫する必要があると思っております。

今皆さんのお話をうかがっていて、シンプルな方向に同意されているというのは理解したのですが、あまりシンプルすぎても伝えたいことが伝わらないということもあると思っておりますから、大きな枠組みと、ある程度説明をするような書き方をして、それを小学

生にかみ砕いて表現するということですよ、中学生バージョンだということですよ、高校生バージョンだということですよ、というように書き方を少し工夫すると、市民や児童生徒らにも浸透していくのかなと思います。具体的なことを今申し上げる段階ではないかとは思いますが、今後表現の仕方を工夫していく必要があるのかな、ということを感じました。

**(小林委員長)**

これも先ほど出てきたと思いますが、ある意味では非常に分かりやすい一文表現、けれどもそれだけでは言い尽くせないことも当然あるわけですから、二段階というか、構成上の工夫をして、今伊藤委員としては例えば子どもたち、また、市民の発達段階やそれぞれの世代に応じたような位置付けが工夫できるといいのではないかという、これも一つのご提案だと思います。

**(岡本委員)**

横須賀が好き、という言葉のところで考えていたのですが、例えば私は、よその市からこちらに移り住んで22年になります。最初は横須賀のことを何も知らずに来ました。ただ、子育てをする中で、これは社会教育にもつながるのかなと思うのですが、博物館のイベントとか、天神島とか、国際交流協会の会員をしたり、合唱団とか、広報を見たりしながら本当に横須賀のいろんなところに、子どもを連れて歩きました。

結果、私は今、横須賀が好きです。子どもたちは二人とも都内の大学に進学し、離れていますけれども、友達が皆横須賀を見に来たいと言っているそうです。今はコロナ禍でとても来られないけれども、写真を撮ってはこんな所がある、と発信しているのを見て、結果、子どもも誇りに思っているのかなと思います。

ですので、時間をかけて、少々大人の意識もありますけれども、共に動いて、いいところを見つけていく、それが最終的に、ふるさとが好き、ということにつながるのかなと感じました。

**(小林委員長)**

皆さんから出た意見として、これは当然かもしれませんが、どちらかというとな今までのものが学校教育中心になりがちだったけれども、それをもう少し社会教育というか、市民という視点で捉えて手直ししていくというか、言葉上の表現としてもそういう発信、表現ができればいいのではないかというご意見が多かったと思います。私自身もそのように考えますけれども、その点などでも何か補足等ございますか。

**(梨本委員)**

今、学校教育主軸であるかと思いますが、ここにぜひ社会教育の観点も加えていただきたいということで、そこにももちろん「人」が入ってくるのですが、さらに横須賀は誇るべき文化遺産、これは特筆すべきだと思いますか、近代遺産のボリュームが非常に大きいと思っております、それが今の生活にも直結しているところがあります。

博物館、美術館、図書館などありますが、米軍の方から寄贈された図書もあると聞いています。そういう意味で非常にいろんな背景を抱えながらの文化遺産や社会教育施設は、



まさに多様性と言いますか、その幅はすごいと思っています。

ですので、これまで教育振興基本計画の中で入れていただいている、社会教育の中でも文化遺産であるとか、図書館、博物館、そういったところも教育の姿になるのかと思います。子ども、人の姿、そして教育の姿のところ、文化遺産、社会教育施設をどのようにバックアップするかという視点も、入れていただけると良いのかなと思っています。

#### (小林委員長)

社会的な歴史の遺産だけではなく、進行形であるし、これから未来志向形になるわけですから、そういうものの豊かさということもぜひ発信していきたいということだと思います。

確か校長先生からご発言があったと思いますが、現実には先生方の多忙感の中、子どもたちへの教育の実践の中で、市の教育として「豊かさ」をどうサポートしていくかということも、私も専門が授業研究であることから、気になっております。

これは市民レベルで考えていくとき、教育政策としてはコミュニティスクールの問題がずっと言われてきているわけです。本当の意味で市民と一体となって協働参画しながら活動していく、市民と先生方が一緒になって地域の学校を作っていくというのは、呼びかけは当然前から行われているけれども、実際いざ動かすとするといろんな課題が山積している。これは、学校側はもちろん、市民、大人の側が学校文化をどう作っていくのかという、大人の主体的な関わり方の問題です。それをこの計画の中の文言にするのかどうかというところまでは私もまだ断言できないのですけれども、そういう余地はないかなと、個人的な思いとしてはあります。そのあたり、どなたか何か、ございますか。

#### (妹尾委員)

少し関連するかなと思うのですけれども、文言に入れるかはともかく、おっしゃるよういろいろな方々が子どもの学びに関わるというのはもっともっと大事にできればと思います。

今も各学校でいろいろ頑張られているし、忙しい中いろんな連携もしていただいているとは思いますが、例えば、教科書にあることをちゃんと教えるというだけの狭い意味の学びではなく、探究的な学びといいますか、子どもたちの好奇心だとか、その関心に応じてやっていくということがより重要視されているのではないかなと思います。知識が大事ではないと言っているわけではないのですけれども、いろんな知識はインターネットで調べればすぐ得られますので、そういう意味でも探究的な学びが大事だと思います。

SDGsもそうですが、リアルな社会課題であるとか、地域の問題と触れることによって子どもたちの学びの意欲が高まるということが大切ではないかと思います。例えば大人はついつい、数学などはほとんど役に立たないよね、と言ってしまいますけれども、いろんな社会の問題を考えていくと、実は数学が役に立っているのだな、と実感したり、単に受験に関係するから勉強するというのではなく、いろんな子どもたちの好奇心が高まっていったりするという方向性は、計画全体として大事にした方がよろしいのではないかなと思っています。

#### (渡辺委員)

地域のコミュニティを巻き込んだ地域全体の教育については、社会教育主事の大きな役割だというふうにも言われております。

したがって、社会教育主事などいわゆる専門職が市長部局と十分に関わりを持ち、連携しながら、具体的に学校とどう連携していくか、学社連携をどうしていくかということについては、まさに社会教育主事の腕の見せ所だと思っています。その辺の役割を重点的に社会教育に位置付けるということも、あって良いのかなと思いました。

#### (小林委員長)

しばらく前までは、ある意味では場所で全て区別されてきました。学校は学校という場所、社会は社会という場所、そこで役割を担っている人たちがそれぞれ懸命な仕事をされているのだけれども、場所が違うということでどこかすれ違っていたりしていくわけです。だからそれを連携させましょうということなのだけれども、連携と言いながら根っこは違う場所のままなのです。

ただ、現実問題として、これは学校教育の言葉になりますけれども、GIGAスクールがこれからどんどんと加速化していくと思います。そうなっていったときに、ICTが活用されていくと、時空の概念が超越されていくわけです。特に空間的な制約がかなりなくなっていくと思います。私などは遅れている人間かもしれませんが、子どもたちは、道具が自分の手元に当たり前であれば、軽々と超えていくと思うのです。そうなっていくと、場所という制約性からかなり解放されていくわけで、今渡辺委員がおっしゃったような、ここが教員でここが社会教育主事で、という話ではなくなってくるのかなと思います。

子どもも、それから市民も、自分が興味関心のあるものや、もっと何々したい、こうありたいということに関してアクションを起こそうとする、広い言葉で言えば探究するときには、ICTを活用しながら、皆がスペースというか場所を超越しながら関わってしまうわけです。

そこを学校の先生方、様々な主事さんもそうだし、親御さん、市民が強力にサポートしたり、上手にファシリテーションやコーディネートすることで、本当の意味でのコミュニティスクールが進むのだろうと考えているのですが、道具が現実子ども手に着々と広がっていくようになる向こう5年間くらいというのは、少し今までとは違ったスピードで、いろんな社会が変わっていく可能性はあると私自身も思っています。少し個人的な意見かもしれませんが、加えさせていただきます。

#### (妹尾委員)

伊藤先生がおっしゃっていたこととほとんど同じなのですが、キャッチフレーズなり、なるべくシンプルな表現にというのは賛成ではあるのですが、やはり、抽象度が高くなればなるほど分かりづらくなったりですとか、何というか、通り一遍の、これ横須賀でなくてもいいよね、という感じにどうしてもなってしまう部分が出てくると思います。その辺はトレードオフと言いますか、難しい部分があります。

現行でも工夫されていると思うのですが、子ども像なり人間像なりの策定に当たっての背景だとか思いと言いますか、理念の背後にあるもの、その心は何なのかということをもう少しかみ砕いて説明をするということは大事で、これが箇条書きなのか文章なのかは別の検討の話なのですが、そこはやはり丁寧に説明しようという姿勢がないと、結

局この計画を作っても活用されないというか、学校とか社会教育とかいろいろな場面で参照されづらくなるのかなという事は心配していますので、またご検討いただければと思います。

**(小林委員長)**

これもご発言があったと思いますけれども、少なくともナンバリングをしてしまいますと、1番目、2番目、となってしまうから、一文構成なり、二文を並べるとしても、番号付けはあまりよろしくないだろうということも、皆さん方で共有できたのではないかと思います。ほかにございますか、よろしいでしょうか。

以上で議題2を終了させていただきます。最後に議題3として今後のスケジュールについてです。事務局から説明をお願いします。

**■議題3 今後のスケジュールについて**

**(教育政策課・古谷課長)**

資料3「今後のスケジュール」をご用意ください。

本日、第2回検討委員会でいただきました「目指す姿」についてのご意見をまとめ、今月末の作業部会で経過報告と第3回に向けての検討をさせていただきます。

なお、本日参考資料5としてお示しいたしました、「次期計画での位置付けを検討している方針・柱・施策(案)」につきましては、既に事前にご意見をいただいている部分もありますし、また、事務局においてもいろいろな意見をいただいていますので、少し、事務局の方で整理させていただいたもので、後日、別途意見照会をさせていただきます。目指す姿と併せて検討を進め、次回会議でご報告したいと考えています。

スケジュール表に戻りまして、8月には教育委員による点検・評価を実施します。ここで、現計画期間の取り組みに対する検証を行うとともに、本委員会での検討状況についても報告する予定です。

9月に開催する次回・第3回検討委員会では、目指す姿のまとめをご報告するとともに、それを実現するための方針や柱について検討し、10月の第4回検討委員会にて、パブリック・コメントにかける計画素案に対するご意見をいただきたいと思います。

これは事務局の現段階の考えですので、先日と同様、作業部会において進め方も含めて打ち合わせさせていただければと思います。

今後のスケジュールについての説明は以上です。

**(小林委員長)**

「今後のスケジュール」についてご質問・ご意見はありますか。また、全体をとおしてのご質問・ご意見もあれば、ここでいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

スケジュールにもありましたが、次回の検討委員会までの間に作業部会が予定されていますので、作業部会に所属の委員の皆様、そして事務局の方で今日の議論も整理していただき、また次回の提案を作成していただければありがたいと思っております。

(渡辺委員)

確認ですが、参考資料5の方針、柱、この検討は、9月8日にすれば良いということでしょうか。これについて少し意見があるのですが、それはそのときに言えばよいということでしょうか。

(教育政策課・古谷課長)

先ほど少し音声が途切れてしまいましたが、参考資料5の方針、柱については、すでに事前説明の中で委員の皆様からご意見をいただいている部分もありますし、また、事務局内でもいろいろな意見が出ておりますので、少し修正をさせていただいて、後日、紙ベースで意見照会をさせていただきたいと思っております。

その意見をとりまとめた上で、第3回検討委員会でさらにご意見をいただければと思っています。

(小林委員長)

方針、柱の部分については個別に関連する委員の方に聴取があるということですね。

(教育政策課・古谷課長)

全ての委員の皆様に、お伺いします。

(小林委員長)

全員に、個別にやりとりするということですね。更新をする場があり、それと並行して作業部会も行われるわけですね。

(教育政策課・古谷課長)

そのとおりです。

(小林委員長)

渡辺委員よろしいでしょうか。

(渡辺委員)

わかりました。

(小林委員長)

各委員に事務局から連絡があるということですので、そこで皆さんのいろいろなご意見を事務局の方にお出しいただければと思います。

それではあらためて、本日の議題を全て終了させていただきます。本日も本当にご協力ありがとうございました。事務局に進行を戻します。

(教育総務部・佐々木部長)

委員の皆様、長時間にわたってのご議論、ありがとうございました。特に本日は、各委員の未来の横須賀の教育に対する思いをお聞かせいただき、誠にありがとうございました。

次回、第3回の委員会は9月8日水曜日、午前10時からweb会議で開催いたします。  
以上をもちまして、第2回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を閉会いたします。  
本日はありがとうございました。